

# よりよい授業をめざして ～授業改善推進プラン～

Ⅰ 年

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読は、元気に読もうとする児童が多いが、文字をまとまりとしてとらえることが難しい。</li> <li>教科書の文やテストの問題文を読む能力に個人差がある。</li> <li>ひらがなやカタカナの定着、語彙数、文章を書く能力に個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個、ペア、全体など、読み方を工夫し、努力や上達を認め意欲を高める。</li> <li>読みを深めるために、叙述を基に考えさせたり、登場人物の気持ちや行動を考えさせたりすることで、文章を読む能力を高めていく。</li> <li>授業や宿題で、文字の書き取りや言葉探しの練習を取り入れる。書き方の手順、言語学習も段階的に指導し、表現に自信を付けさせる。</li> </ul>
算 数	<ul style="list-style-type: none"> <li>出題形式が変わってしまうと分からなくなってしまう児童がいる。</li> <li>10までのたし算、ひき算の計算の習熟が必要である。</li> <li>文章問題は、問題文の意味を理解できず、立式を間違えることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習のプリントなどで様々な形式の出題に慣れさせる。</li> <li>繰り返し計算を行い、見直しをする習慣を身に付けさせていく。また、計算チャレンジ（計算クエスト）を実施し、計算の基礎基本の習得を目指す。</li> <li>具体物や絵、ICT機器を使って問題文の意味を確認しながら立式させる。</li> </ul>
生 活	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的だが、活動内容をカードなどに表現する力に個人差がある。</li> <li>気づきの内容や表現に個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>たんけんボードを活用し目の前で観察できるようにさせたり、観察するものを写真に撮り注目しやすくさせたりする。</li> <li>観察の視点としてキーワードを提示し、その中から選んで文に表せるようにする。</li> <li>全体で話し合った意見を参考にさせたり、ICT機器を使用して友達の気づきを紹介する時間を取ったりする。</li> </ul>
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>元気に歌うことはできているが、曲想を感じ取りながら表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもてるようにする。</li> <li>拍にのって打楽器や手拍子でリズムを打ったり、鍵盤ハーモニカを演奏したりすることに興味をもって取り組んでいる。楽器の音色と演奏の仕方の関わりに気付いて演奏する技能については、更に伸ばしていく。</li> <li>音楽の楽しさを感じ取って聴くことができるが、それを表現する能力に個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりする活動を通して、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関係についての気づきを共有し、どのように歌うかについて思いをもつことができるようにする。</li> <li>教師や友達の演奏を聴いたり、奏法を試したりしながら、適切な奏法を身に付けることができるようにする</li> <li>鍵盤ハーモニカについては、個別指導の時間を確保するようにする。</li> <li>体を動かす活動や、感じ取ったことや気付いたことを伝え合う場面において、一人一人の感じ方のよさを価値付けたり、児童の言葉を教師が補ったりすることで、自分の考えを音や体の動き、言葉などで表現できるようにする。</li> </ul>

図 画 工 作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみながら作品づくりに取り組んでいる。</li> <li>・指先を思うように動かせない児童や道具の使い方に慣れていない児童に手だてが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が興味をもって、意欲的に最後まで取り組める題材を用意する。</li> <li>・指先を使う活動や、道具の使い方の学習を繰り返し行い、基本的な道具を使う技能を育てる。</li> </ul>
体 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かすことは好きで積極的に取り組む。</li> <li>・すすんで準備や片付けに取り組む。</li> <li>・運動は、技能や体力、経験等の個人差が大きい。</li> <li>・活動に対して、みんながやり方を工夫するような経験を意図的に取り入れる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあての設定を工夫し、自らの成長が分かるような声掛けを行い、更に意欲を高める。</li> <li>・様々な運動経験ができるよう、計画的に進める。学習プロセスを工夫し、課題を解決していくことで苦手意識を和らげる。</li> <li>・集団の中で活動がうまくいってないことや困っていることを提示し、考えを出し合うようにする。</li> </ul>
特 別 の 教 科  道 徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりや友達と仲良くする大切さを実感している児童が多い。</li> <li>・友達関係の中で、つい自分本位な行動や、気持ちをうまく表現できない児童への手だてが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心を動かす資料や展開の工夫で自分の考えをもつことができるようにする。話し合うことで、友達の考えのよさに気づき、自己の振り返りに生かす。</li> </ul>

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習漢字の定着が必要である。</li> <li>拗音や促音を用いたり、順序を考えたりして文を書くことが苦手な児童がいる。</li> <li>読書をすすんで行う児童が多いが、本のジャンルに偏りがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で漢字練習時間を確保するとともに、デジタルドリルを活用し基礎学力の定着を図る。毎日の家庭学習と確認テストの実施で定着させる。</li> <li>手本や構成表を基に、順序よく作文を書かせ、拗音や促音、かぎなどの使い方を習得させる。</li> <li>図書などの読み聞かせを通して、様々なジャンルに触れられるようにする。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>量の感覚に関する経験が少なく、「長さ」や「水のかさ」で量を捉えることの定着が必要である。</li> <li>ものさしや時計など、道具の扱いや目盛りの読み取りに課題がある。</li> <li>計算力の定着に個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>cm、m、L、mL、午前と午後、何分前、何分後などの言葉を意識して使わせるとともに、教師も日常的に「時間」と「時刻」を意識して使い分けたり、単位を使ったりする。</li> <li>日常的にものさしを使わせたり、時計を用いたりする。</li> <li>東京ベーシックドリルや計算クエスト、デジタルドリルを活用し、基礎学力の向上を図る。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>植物や昆虫の観察の際、成長や変化を具体的に捉える経験を積ませる必要がある。</li> <li>活動や体験を通して得られた「気づき」に対する視点が少なく、気付く事柄の多さに個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回との比較や触った感じ、形、長さ、色、においなど、具体的な観察のポイントを示し、五感を使って観察させる。</li> <li>気づきの質を高めるために、気づきの視点を児童に提示し、表現の語彙を増やすよう促す。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>元気な声で楽しく歌うことができているが、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりに気づき、歌い方を工夫して表現することについては課題がある。</li> <li>器楽については、鍵盤ハーモニカやミニキーボードの音色に興味をもって取り組む児童が多い。鍵盤ハーモニカは、息の使い方と音色の関わりを意識して演奏している児童もいるが、技能に個人差がある。</li> <li>鑑賞では、自分の感じたことや気付いたことを言葉で伝えることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かす活動や、自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりする場面を設定したりし、思いをもつことができるようにする。また、伴奏を聴きながら自分の声に気を付けて歌うことができるようにする。</li> <li>鍵盤ハーモニカの学習では、個別指導の時間を確保する他、ICT 機器を活用して運指を視覚的に分かりやすく示したり、スモールステップで学習するための楽譜を作成したりする。</li> <li>教師や友達の演奏を聴いたり、演奏の仕方を試したりしながら、思いに合った演奏をするために必要な技能を身に付けることができるようにする。</li> <li>曲想を表す言葉や〔共通事項〕などのキーワードを黒板に掲示しながら、児童の発言を全体で共有し、児童の言葉を教師が補うことで、表現方法を学んだり、語彙を増やしたりすることができるようにする。</li> </ul>

<div>図画工作</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料や道具を工夫して用いる指導を充実させる必要がある。</li> <li>自分で作品の内容を想像することができるような工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動前にテーマに沿ったイメージを広げる時間を取り入れる。また、見通しをもって活動することができるように、事前に計画を練る時間を設定する。参考作品を見せたり、動画で作業の様子を見せたり、児童同士の交流を学習者用端末を用いて行ったりし、イメージをもとに作品をつくることのできるようにする。</li> <li>材料や道具の特性を理解させる。</li> </ul>
<div>体育</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かすことに対する意欲は高いが、多様な動きをする経験が少ない。</li> <li>課題解決に向けた活動に取り組み、技能を向上させることについて個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな動きが経験できるよう、多種多様な動きのある運動を取り入れる。</li> <li>学習の振り返りの時間を設け、課題解決の手法が分かるようにする。また、学習者用端末を活用して、客観的に自分の動きを確認できるようにする。</li> </ul>
<div>特別の教科 道徳</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材をもとに登場人物の心情を捉えられるが、「よりよい生き方」について自分の考えを持ち同じような場面に立ち会ったときに、行動し振り返ることに課題がある。</li> <li>自分の考えをもったり、表現したりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の気持ちや考えを伝え合ったり、ワークシートを読み合ったりすることで、自分の考えを深めることができるようにする。</li> <li>役割演技で場面を再現するなど、自分の考えや行動について振り返ることができるようにする。</li> </ul>

# よりよい授業をめざして ～授業改善推進プラン～

3 年

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の習得に個人差がある。</li> <li>文章の叙述を根拠に心情や様子を読み取る力に個人差がある。</li> <li>語彙が少なく、自分の思いを様々な言葉で書き表すことに課題がある。また、内容の中心を分かりやすく書くことに課題がある。</li> <li>事柄の中心を考えて話したり、聞いたりする力に個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぞり書きや空書きで字形を丁寧に確認させ、ドリルのテストを用いて定期的に習熟の確認を行う。繰り返し練習させ、学期2回の漢字50問テストで成果を確認する。</li> <li>辞書を使用して語彙を増やしたり、文章の構成を理解させたりするような指導を行う。</li> <li>日記を書く時間を定期的に作り、書き方を定着せたり、個別で書くことを指導できる時間を確保したりする。特に読み合いを日常的に行えるような環境を整える。</li> <li>友達の発表の後に意見や感想を伝え合う機会を多く設定する。人の話に対して自分の思いや考えをもつことを意識させる。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学や自分で調べる学習への意欲は高いが、学んだことを自分でまとめていく力を身に付けていく必要がある。</li> <li>学習問題を基にして、自分で調べ学習を進めまとめていく、という社会科の学習方法の経験が不足している。</li> <li>地図や資料を読み取る力に個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞、リーフレット、ポスターなど、様々なまとめ方を経験させる。学年末には、学習者用端末を使い、スライドでまとめる経験をさせる。また、グループで話し合っまとめてめる機会を設ける。</li> <li>問題解決型の学習プロセスを丁寧に指導し、学習問題作りや、学習計画作りを経験させ、主体的に学習する力を身に付けさせる。</li> <li>少しずつ、地図帳を使う経験を積み重ねていく。また、学習者用端末でストリートビューやグーグルアース等も活用する。</li> <li>写真やグラフ、文章等、様々な資料を読み取る際には、「比べる」「全体で見る」「部分で見る」など、読み取る視点を与え、資料ごとにどの視点が使ええるかを考えさせる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習中は学習内容をしっかりと理解している児童が多いが、学習後の既習事項の定着が課題である。</li> <li>文章問題の題意を理解し、立式することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算クエストの年間実施を通して、基礎的な計算力の礎を作る。</li> <li>習熟度別でクラス分けをして、既習事項の復習をしながら本時の学習を行うなどスモールステップで進めたり、早めに進めて課題を増やしたりするなど、個に応じた指導の工夫をする。</li> <li>問題を図や数直線に表したり、キーワードに線を引いたりするなど、文章問題の解き方を細分化してスモールステップで指導する。</li> </ul>

理 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察への意欲が高い。</li> <li>・知識や技能の習得が課題である。</li> <li>・思考力については、個人差がある。</li> <li>・昆虫や植物に対して関心がある児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のねらいをはっきりさせ、観察や実験の目的を常に意識して行えるように指導する。</li> <li>・観察や実験を行う際には必ず予想を立て、観察や実験の見通しをもたせてから行うようにする。また、日常生活と結び付けて考えられるように予想を立てるときに例を示す。</li> <li>・実演や動画をできるだけ多く見せて、理解を深めさせる。</li> <li>・対話的な学びを多く取り入れ、思考することに慣れさせる。</li> </ul>
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱については、曲想を感じ取ることができるが、それを音楽の構造や歌詞の内容と結び付けたり、どのように表現するかという思いや意図をもって歌ったりすることには課題がある。</li> <li>・リコーダーの学習においては、タンギングや息の使い方を意識して演奏できる児童が増えてきた。</li> <li>・鑑賞では、曲想と音楽の構造を結び付けながら聴くことはできてきているが、曲のよさを見出し、曲全体を味わって聴いたり、それを言葉で表したりすることについては課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりが視覚的に分かる板書を工夫する。また、児童が気付いたことをもとにして、どのように歌いたいと考えさせるようにする。</li> <li>・リコーダーの持ち方や指使い、奏法を繰り返し確認し、一人一人が自分の音を聴く場面や友達の音を聴く場面を十分に設定する。</li> <li>・楽譜と音やリズムを関連付けて演奏できるよう、演奏する旋律を階名唱し、ハ長調の楽譜に慣れるようにする。</li> <li>・聴く観点を絞ったり、体を動かす活動を取り入れることで、曲想と音楽の構造との関わりを実感し、曲のよさを見出すことにつなげていく。また、曲想を表す言葉や〔共通事項〕の掲示物を活用した板書を工夫し、ねらいに沿った文章表現ができるようにしていく。</li> </ul>
図 画 工 作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・描いたり、作ったりすることへの関心、意欲が高く、授業を楽しみにしている。</li> <li>・指先を思うように動かせない児童や道具の使い方に慣れていない児童が一部見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な作品見本や制作方法を見せてイメージをもたせ、創作意欲などを更に高めるようにする。</li> <li>・指先を使う活動や、道具の使い方の学習を、繰り返し行い、基本的な道具を使う技能を育てる。</li> </ul>
体 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かすことへの意欲に個人差がある。</li> <li>・めあてをもって学習をする意識付けが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に応じて技能を高めるポイントを示し、さらに意欲をもって取り組めるようにする。</li> <li>・互いに教え合ったり、協力し合ったりして取り組めるようにする。</li> <li>・いろいろな動きを経験し、運動への意欲を高められるようにする。</li> <li>・学習者用端末や学習カードを活用し、めあてを立てたり、振り返ったりすることができるように工夫する。</li> </ul>

<p>特 別 の 教 科 道 徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学んだ場面に共感して自分自身のこととして具体的に考える際、深まるような手だてが必要である。</li> <li>• 模範的な考えを出すことはできるが、自分自身の行動を振り返り、内省的に深く考える力を身に付ける必要がある。</li> <li>• 多様な意見が共有できるような手だてが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 葛藤し、迷う場面のある題材を活用し、自分だったらどうするか、なぜそうするのかを考え、考えたことを交流する活動を行う。また、ロールプレイ等を取り入れる。</li> <li>• 模範的な考えに対し、本当にそうなのか、別の条件だったらどうなるのか、児童の心を揺さぶる発問をして内省的に自分を見つめるきっかけを作る。</li> <li>• 全員が自分の考えをもって共有しながら授業に参加できるよう、特に主発問では、書く時間を十分にとる。書き終わったら、友達と自分の考えとを比較し、交流できるよう、見合う時間を設ける。</li> </ul>
<p>外 国 語 活 動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業を楽しみにしている児童が多い。</li> <li>• ALT の発音を聞くことで、正しい発音に耳が慣れるようになってきた。</li> <li>• 習ったフレーズを授業以外でも言っている児童がおり、興味や関心は高まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 数字や曜日、気持ちを表す言葉など、日常でも使うような簡単なものから取り扱うようにする。</li> <li>• まずは音で覚え、何度もやりとりを通してアウトプットできるようにしていく。</li> <li>• 学習した言葉を使った、誰もが楽しむことができるゲーム等を活用して、発話する機会を作る。</li> <li>• 毎回、チャンツを取り入れ、話型を覚えさせる。</li> </ul>

# よりよい授業をめざして ～授業改善推進プラン～

4 年

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の習得に個人差がある。</li> <li>文章の叙述を根拠に心情や様子を読み取る力を身に付ける必要がある。</li> <li>語彙が少なく、自分の思いを様々な言葉で書き表す力を身に付ける必要がある。</li> <li>文章の組み立てを考え、内容の中心を分かりやすく書く力を身に付ける必要がある。</li> <li>事柄の中心を考えて話したり聞いたりする力を身に付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぞり書きや空書きで字形を確認させ、ドリルテストを用いて定期的に習熟の確認を行う。学期2回の漢字カラーテストで成果を確認する。</li> <li>叙述や言葉の有無によって受け取り方がどう変わるか考えさせ叙述の有用性を確認させる。</li> <li>辞書を日常的に使用し、語彙を増やす。</li> <li>構成表を基に文の組み立てを考えさせ、下書き、推敲、清書、交流などのように、計画的、段階的に指導する。テーマやポイントを提示した日記を課題として設定する。</li> <li>注目すべき視点を確認し、要点を捉えて話したり聞いたりできるように指導する。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学や自分で調べる学習への意欲は高いが、学んだことをまとめる段階での粘り強さや発展させる力に個人差がある。</li> <li>学習する社会事象について関わりのあるものとないものの区別がつきにくく、適切に課題を設定する力を身に付ける必要がある。</li> <li>地図や資料を読み取る力を身に付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ活動をすることで助け合い学び合う力を身に付けさせる。また、単元の終末にノートまとめを行い、学習内容の大切なことや感じたことなどをまとめる力を養う。</li> <li>調べたい事柄をグループ分けしたり、取捨選択したりしながら、課題となりうる疑問を整理させ、適切な課題設定ができるように指導する。</li> <li>見学時に実際に通った道や見学場所を地図と対応させて確かめたり、地図帳や学習者用端末のストリートビューやグーグルアース等を活用して地図に慣れさせたりさせる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項や基礎基本の学習が定着している児童と、そうでない児童の個人差が大きい。</li> <li>定規や分度器、コンパス等、用具の扱いが不慣れな児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算クエスの年間実施を通して、基礎的な計算力の礎を作る。</li> <li>習熟度別でクラス分けをして、既習事項の復習をしつつ本時の学習を行うなどスモールステップで進めたり、早めに進めて課題を増やしたりするなど個に応じた指導の工夫をする。</li> <li>作図の学習の場面では、丁寧に指導し、作図する機会をなるべく多く設け、用具の扱いに慣れるようにする。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験や観察などに意欲的に取り組むことができるが、実験や観察の目的や操作手順などについて丁寧な指導が必要である。</li> <li>問題に対する予想や結果から導き出した自分の考えなどを、ノートに書き記すことが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が追及したくなる問題が作れるように、事象提示のしかたを工夫する。また、実験の見通しをもたせて、実験や観察を行わせる。</li> <li>各活動の前に、言語化する時間を設け、自分の考えを明確に持たせてから書かせるようにする。また、板書の量やノートに書き写す量を最小限にする。</li> </ul>



音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と声を合わせて歌うことを好む児童が多い。曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くことはできるが、曲の特徴を捉えた表現を工夫したり、互いの声を聴き合って歌ったりすることに課題がある児童もいる。</li> <li>・箏の音色に関心を持ち、音色や響きと奏法との関わりに気を付けて演奏できる児童が多い。</li> <li>・鍵盤ハーモニカやリコーダーを、主な旋律の歌声に合わせて演奏することができる。曲の特徴を捉え、どのように演奏するか思いや意図をもつことに課題がある児童もいる。</li> <li>・リズムの組合せ方を工夫したり、音楽の仕組みを用いて音楽をつくったりすることができている。音楽の仕組みを生かしてつくる面白さへの気付きが弱い児童もいる。</li> <li>・曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くことができる児童が多い。曲全体のよさを味わって聴くことについて、言葉で表現する力には個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かす活動や、音楽的根拠を問う補助的な発問をするなどして、曲の特徴への気付きを促すようにする。また、児童が工夫した歌い方を価値付けたり、工夫した表現を児童同士で見合う場面を設定したりする。</li> <li>・曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いたことを基に、どのように表現したいか思いや意図をもつことにつなげていく。また、自分の考えを言葉で表したり、音で試したりする時間を十分にとることで、このように演奏したいという考えをもつことができるようにする。</li> <li>・児童のつくった音楽を価値付けるとともに、よかった点や個人の気付きを全体で共有し、音楽の仕組みを使ってつくった音楽のよさや面白さを実感できるようにする。</li> <li>・学習を振り返りながら、着目する〔共通事項〕を確認したり、重要な言葉を穴埋めにしたりするなど、ワークシートを個に応じた工夫する。また、書いた文章を、ICT機器を使って共有し、友達の考えから学んだり、自分の考えを広げたりすることができるようにする。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・描いたり、作ったりすることへの関心や意欲は高く、落ち着いて活動できる。授業を楽しみにしている。</li> <li>・素材や画材の性質を活かした表現や、適切な道具の使い方、画面に合わせてバランスよく表現することが苦手な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な作例や制作方法の鑑賞を通して、理解とイメージ、創作意欲などを高めるようにする。</li> <li>・各自の考えを交流して課題意識を高め、材料の性質を活かしたバランスのよい表現、道具の特徴を理解した安全な作業を身に付けさせる。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かすことへの意欲に個人差がある。</li> <li>・めあてをもって学習をする意識付けが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に応じて技能を高めるポイントを示し、さらに意欲をもって取り組めるようにする。</li> <li>・学習者用端末を活用して動きのイメージをもたせるとともに、めあてが立てやすい形式の学習カードを利用する。学習者用端末や学習カード等を適宜用いて振り返るよう指導する。</li> </ul>
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだ場面に共感して自分自身のこととして具体的に考える際、深まるような手だてが必要である。</li> <li>・模範的な考えを出すことはできるが、自分自身の行動を振り返り、内省的に深く考える力を身に付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛藤し、迷う場面のある題材を活用し、自分だったらどうするか、なぜそうするのかを考え、考えたことを交流する活動を行う。また、ロールプレイ等を取り入れる。</li> <li>・模範的な考えに対し、本当にそうなのか、別の条件だったらどうなるのか、児童の心を揺さぶる発問をして内省的に自分を見つめるきっかけを作る。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な意見が共有できるような手だてが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミニシートに書いた自分の考えを各々が黒板に貼り移動や書き足しをしたり、学習者用端末を用いて考えを共有したりする活動を通して、各自が自分の考えをもって授業に参加できるようにする。</li> </ul>
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を楽しみにしている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数字や曜日、気持ちを表す言葉など、日常でも使う簡単なものから取り扱うようにする。</li> <li>英語の簡単な歌を聴いたり、ビンゴをしたりするなど、誰もが楽しむことのできる活動を中心にする。</li> </ul>

# よりよい授業をめざして ～授業改善推進プラン～

5年

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字ドリルを利用し、小テストを繰り返す行うことで定着に努めている。しかし、既習の漢字を使用するという意識を高める必要がある。</li> <li>目的や意図に沿うことや、語を適切に使用することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の学習を体系化し、一人で進められるように指導する。小テストや復習をこまめに行い、定着を図る。文章を書くとき、漢字を使うよう声掛けする。</li> <li>文章の型を与え、書き方を学びながら書く時間を増やす。</li> <li>自分の考えや意見を考える時間を確保する。自分の考えを振り返る時間を増やす。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を正しく読み取ったり、読み取った情報を結び付けたりすることに課題がある。</li> <li>単元のまとめの振り返りの時に、学んだ内容を取捨選択して文章にすることに課題がある。</li> <li>学習課題を自分のこととして捉え、学習者用端末を用いて意欲的に調べることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の読み方やそこから分かることをクラス全体で確認する時間を設ける。読み取りやすい資料から順番に提示する。</li> <li>教科書だけでなく、地図帳や新聞など様々な資料に触れさせ、学習に生かすことができるようにする。</li> <li>まとめでは、学んだことをキーワードとして挙げて、書く文章を全体で見通しをもつ時間を設ける。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎、基本の学習や既習事項が定着している児童と、していない児童の個人差が大きい。</li> <li>課題解決の際、自分の考えをもって問題を解くことができる発展的な問題に対応できる力を身に付ける必要がある。</li> <li>問題を解くことができても、論理立てて説明する力を身に付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度グループ分けのプレテストで、その単元に合った復習問題を出し、既習事項の定着度を調べ、個に応じた指導をしていく。</li> <li>課題解決できるように、個人、全体で考える時間を授業の中に設ける。</li> <li>計算クイズなどで既習事項を活用した問題を繰り返し練習し、定着できるようにしていく。</li> <li>上記の計算クイズを行う時に、前時に行った学習の内容を復習する練習問題もプリントに加え、取り組ませる。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年全体として理科への関心、意欲が高く、すすんで実験や観察に取り組んでいる。</li> <li>根拠のある予想・仮説をもち、見通しをもった実験計画を立てる力を身に付ける必要がある。</li> <li>結果を適切に読み取り、妥当性のある考察をする力を身に付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に課題を解決していく力を伸ばすよう、児童の考えを基に、柔軟な単元計画を立てる。</li> <li>予想や仮説について話し合う時間を確保し、様々な観点から予想を立てられるようにする。</li> <li>実験を行う前に、結果の見通しをもたせることにより、結果を適切に読み取れるようにする。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解し、思いや意図をもって歌うことができる児童が多い。どのように歌うかについて具体的に考えをもつ力を身に付ける必要がある。</li> <li>二部合唱の他声部の歌声をよく聴き、互いの声の音色を揃えて歌おうとする意識が高まってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲の特徴への理解を深め、声の音色や旋律の特徴、強弱など様々な表現を工夫する中で、その意義や楽しさを感じ取ることができるようにする。</li> <li>音の重なり方の違いや強弱の変化に着目し、なぜそのように歌うのかを考えたり、歌って試したりすることで、声の音色や音量のバランスなどを聴き合って歌うことができるようにする。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダーを、曲想と音色、音の重なりとの関わりを理解し、音色や響きに気を付けて演奏しようとする児童が多い。一方で、音量のバランスや自分の演奏を全体の中で調和させることを意識して演奏することに課題がある。</li> <li>・音楽づくりでは、音や声の響きやそれらの組合せの特徴が生み出すよさや面白さを理解して表現することができた。音楽の仕組みを用いてまとまりのある音楽をつくる学習では、どのようにつなげたり、重ねたりするかについて、自分の考えをもつ力を身に付ける必要がある。</li> <li>・鑑賞では、曲想及びその変化と音楽の構造とを結び付けて聴くことができる児童が多い。曲や表現のよさを見だし、言葉で表現することについては個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の担当する声部の役割を確認したり、音が重なるよさを実感することができるよう、他のグループの友達と演奏を聴き合う場面を設定したりし、児童が音を合わせるよさを感じ取ることができるようにする。</li> <li>・音楽の仕組みを生かしてつなげたり、重ねたりする活動を常時活動に取り入れるなど、音楽を構成する際に、試行錯誤する時間を十分に設置し、そのよさや面白さを実感できるようにする。</li> <li>・学習を振り返り、音楽を形づくっている要素の働きが生み出す効果やどの〔共通事項〕に着目して聴くと曲のよさを見い出すことができるかなど、書く視点を明確にするようにする。また、学習者用端末等のICT機器を活用し、友達と書いたことを交流することで、自分の考えと同じ部分や違いに気づき、考えを広げることができるようにする。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・描いたり、作ったりすることへの関心、意欲は高く、集中して取り組む。</li> <li>・素材や画材の性質を活かした表現や、適切な道具の使い方、画面に合わせてバランスよく表現することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な作例や制作方法の鑑賞を通して、理解とイメージ、創作意欲などを高めるようにする。</li> <li>・各自の考えを交流して課題意識を高め、材料の性質を活かしたバランスのよい表現、道具の特徴を理解した安全な作業を身に付けることができるようにする。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理実習や裁縫などに意欲的に取り組むことができている。</li> <li>・実技に個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全面に配慮しながら、友達と役割を意識して取り組んだり、協力し合ったりし、各々の活動時間を十分にとる</li> <li>・各自の課題について考えさせ、その解決に向けて実践につなげられるようにする。練習する時間を多く取る。</li> <li>・学習した内容を生活の中で実践できるよう、声をかけていく。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット型や陸上運動の単元などに意欲的に取り組むことができている。</li> <li>・学習の仕方や作戦を立てるなどの思考判断の面で指導が必要である。</li> <li>・技能や思考面での個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団行動の大切さを伝えつつ、グループ学習を多く取り入れる。</li> <li>・課題解決的な学習を進めることにより、作戦を立て考える場面や運動のポイントを考えさせる場面を意図的に取り入れる。</li> <li>・自分の成長を感じられるように、学習カードにめあてや振り返りを書く時間を設ける。</li> <li>・児童の実態に応じて、練習場所やルールを設定し、主体的に運動に取り組むことができるようにする。</li> </ul>

<p>特別の教科 道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 言葉遣いの乱れや、優しさ、思いやりある行動について、指導する必要がある。</li> <li>• 相手の立場にたって物事を考えることに課題がある。</li> <li>• 学んだことと自分自身の行動を結び付けて考えることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 気持ちや考えを伝え合ったり、自分自身の行動を振り返ったりして、道徳的価値について考え、今後に生かすことができるようにする。</li> <li>• 日常生活指導や、他の教科の学習の中にも道徳的要素は含まれているため、それを重視し、継続的に指導していく。</li> </ul>
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ゲームやクイズには意欲的に取り組むことができる。ALT の発音をよく聞き、練習することができる。</li> <li>• ペア学習などで、積極的に自分から友達に話しかけるなど、授業に向かう姿勢が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ALT を活用し、指導者が発音したり見本を見せたりして、更に楽しく活動に取り組むことができるようにする。</li> <li>• ペア学習やグループ学習などを通して、友達と話し、アウトプットする機会を設ける。</li> <li>• どのような英語をどの場面で使うのかをしっかりとつかむことができるように、その都度コミュニケーション活動を意図的に展開していく。</li> </ul>

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いや考えを文章で書くことに対する苦手意識をもつ児童が目立つ。また、構成を考えたり、表現の工夫を身に付けたりすることに課題がある。</li> <li>要旨をまとめる能力の個人差が大きい。</li> <li>論点を絞り、目的を明確にすることで、話し合いに意欲的に取り組むことができる。</li> <li>文章の中で適切に漢字を使ったり、語句の意味を知らなかったりする。</li> <li>全国学力・学習状況調査では、既習漢字を書く問題や、物語を読んで心に残ったところを記述する問題で無解答率が高かった。基礎的な知識の定着や学習に取り組む際の粘り強さに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視写を通して文章構成を学んだり、表現の工夫を身に付けたりする。</li> <li>文章から重要な語を抜き出す練習を繰り返し行い、その語をつなげてまとめる練習や互いの文章を見合う活動を多く取り入れる。</li> <li>これまでの既習漢字を忘れていることが多いため、復習も取り入れながら定着させていく。</li> <li>漢字の学習を体系化し、一人で進められるように指導する。小テストをこまめに行い、定着を図る。熟語調べも積極的に行う。</li> <li>単元末には学習感想などの時間を多くとって書く活動を設け、書くことへの抵抗感を減らすとともに、自分の考えを表現する活動に慣れさせる。</li> <li>短文で自分の考えを繰り返し表現する活動を多く取り入れる。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を読み取ることはできるが、読み取った情報から自分の考えをもつことのできる児童が少なく、内容も短絡的で極端なものが多い。</li> <li>授業ごとのまとめを自分で書く力を身に付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>注目する資料を明確にする。読み取った情報から何が分かるか、ペアやグループで考えさせる時間を設ける。</li> <li>授業ごとのまとめは、まとめ方のひな型を示し、重要語句を埋める、書き出しを指定するなど、段階を追って自分でまとめられるようにしていく。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な学習の習熟度に個人差が大きい。</li> <li>既習事項を確実に身に付ける必要がある。</li> <li>基礎的な計算を活用して解答する力を高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習問題とともに、公式を繰り返し使ったり、振り返ったりする時間を設ける。</li> <li>レディネステストで、児童の習熟度を診断し、実態に応じたグループ編成や授業展開を行う。</li> <li>毎時間に、前時に行った学習の内容を復習する。</li> <li>単位忘れ、計算間違い等のケアレスミスがなくなるように、見直しや直し等を徹底させていく。</li> <li>かけ算やひき算、たし算などの1、2分程度のドリルを毎時間の初めに行う。正確さとともにある程度のスピードで取り組むよう声掛けし、繰り返し練習させる。</li> <li>上記の計算練習時に、前時に行った学習の内容を復習する練習問題も加えたプリントにして取り組ませる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査では、基礎的な計算はできるが、考察したり、比例や割合といった既習事項を用いて答えを導き出したり、考えたりする力を高めることが課題であることが分かった。また、グラフを複合的に捉えて考察したり、図形の定義を理解したりすることにも課題があることが分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>倍や割合の問題は、数直線を自分の力で書いたり、簡単な数値に直して立式の方法を考えたりさせながら、自分の力で正しく立式する力を身に付けるようにする。</li> <li>問題提示などを工夫し、問題場面を想像しながら問題解決に取り組めるようにする。</li> <li>問題解決の仕方を互いに発表し合う中で、問題に取り組む姿勢を学ばせる。</li> <li>各領域の授業のはじめに前学年までの内容を振り返る時間を設定し、反復して計算の仕方や図形の定義をおさえられるようにする。</li> <li>東京ベーシックドリルなどで、既習事項を繰り返し練習し、基礎基本の習得を図る。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>理科への興味や関心を高める必要がある。</li> <li>予想や考察を書く場面において、自分の考えを正しく簡潔に書くことに課題がある。</li> <li>知識の定着に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事象提示を工夫し、児童が興味や探求心をもって問題解決ができるようにする。</li> <li>書き方のひな型を示し、簡潔に文章が書けるようにする。</li> <li>単元の最後にノートまとめの時間を確保し、知識の定着を図る。また、テスト前にプレテストを行う。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱では、曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる児童が多い。しかし、自然で無理のない響きのある歌い方で歌ったり、互いの歌声を聴き合って、歌声を合わせて歌ったりすることには課題がある。</li> <li>器楽では、楽器の組合せと曲想との関わりを理解し、各声部の役割に合った楽器を選んで合奏することができた。全体の響きを聴いて音を合わせることにについては、課題がある。</li> <li>鑑賞では、曲想及びその変化と音楽の構造とを結び付けて聴くことができる児童が多い。曲や表現のよさを見出し、言葉で表現することについては個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思いや意図に合った表現をするために、呼吸や声の響かせ方に着目して歌い方を試したり、自分たちの歌声を学習者用端末に記録して客観的に聴いたりすることで、互いの声を聴き合い、自分の歌声を全体の中で調和させて歌うよさを実感できるようにする。</li> <li>互いの音を聴き合う活動を行う時間を十分にとるようにする。自分が担当する声部以外の楽器がどのように演奏しているか聴き合うことで、互いの音を合わせる意識をもつことができるようにする。</li> <li>学習を振り返り、音楽を形づくっている要素の働きが生み出す効果やどの〔共通事項〕に着目して聴くと曲のよさを見出すことができるかなど、視点を伝えるようにする。また、学習者用端末等のＩＣＴ機器を活用し、友達と書いたことを交流し、自分の考えとの共通点や相違点に気づき、考えを広げることができるようにする。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>描いたり、作ったりすることへの関心や意欲は高く、落ち着いて活動することができる。</li> <li>素材や画材の性質を活かした表現や、適切な道具の使い方、画面に合わせてバランスよく表現する力を高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な作例や制作方法の鑑賞を通して、理解とイメージ、創作意欲などを高めるようにする。</li> <li>各自の考えを交流して課題意識を高め、材料の性質を活かしたバランスのよい表現、道具の特徴を理解した安全な作業を身に付けさせる。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した知識を実生活で活用することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活で活用できるような授業を展開し、振り返りや各自の課題を考えさせる。実習後は、各自が設定した課</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の中で、学習内容を体験することにより個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>題に取り組ませ、家庭での実践に繋げられるようにする。</li> <li>実習や体験だけでなく、動画を生かした授業を展開することで、自身の生活に生かすことができるようにする。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動が好きな児童が多いが、体を動かすことに抵抗がある児童もいる。</li> <li>毎時間の課題を意識して、学習に取り組む児童が増えてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上運動やボール運動など様々な運動を行い、体を動かすことの楽しさを味わわせていく。</li> <li>個々やチームの課題を解決するための場や時間を設定し、より高まるよう指導していく。</li> </ul>
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の立場になって物事を考えることに課題がある。</li> <li>学んだことと自分自身の行動を結び付けて考えることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発言しやすい雰囲気をつくり、なるべく多くの児童から意見を引き出すことで、多様な考えがあることに気付かせ、徐々に相手の立場からも物事を考えられるようにする。</li> <li>その場面ごとに児童自身の問題として考えるように働きかける。また、自己を見つめる時間を設け、これまでの経験を想起させながら、迫りたい道徳的価値と日常生活の場面について結び付けて考えられるようにする。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語の授業に苦手意識をもっている児童が多かったが、意欲的に取り組む児童がだんだん増えてきた。</li> <li>発音練習や発表では声をあまり出さない児童がいるので、個別に声掛けが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、指導者が率先して英語を発音したり、身体表現をしたりして、更に明るい雰囲気をつくる。</li> <li>楽しく話すことに重点を置き、基礎的な知識を伸ばす活動を繰り返すことで、中学校での学習につながるようにしていく。</li> </ul>